

実施要領 様式11(第13条関係)  
【認知症対応型共同生活介護用】

## 評価結果公表票

作成日 平成21年11月17日

### 【評価実施概要】

事業所番号	0272700949
法人名	株式会社 ゆとり
事業所名	グループホーム ゆとり
所在地	青森県三戸郡階上町蒼前東6丁目9-181 (電話)0178-88-1920
評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成21年8月3日

【情報提供票より】(平成21年7月5日事業所記入)

#### (1)組織概要

開設年月日	昭和14年11月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算	8人

#### (2)建物概要

建物構造	木造トタン屋根	造り
	2階建ての	1階部分

#### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	理美容代1500~2000 円他
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり		円

#### (4)利用者の概要(7月5日現在)

利用者人数	8 名	男性 2 名	女性 6 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名
要介護3	5 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 81 歳	最低 71 歳	最高 91 歳

#### (5)協力医療機関

協力医療機関名	木村クリニック つきだて歯科 シルバー病院
---------	-----------------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近隣には住宅が多く、色々な環境(スーパー、公園、病院)に恵まれている。同法人の施設も近くにあり、近隣の人や同ホームの人が面会に訪れたり、町内会に加入し、地域の行事に参加している。

地域住民に向けて年2回、介護教室を開催するほか、ホーム長が地域のキャラバンメイトとして活動しており、認知症の予防・普及活動に積極的に取り組んでいる。ホームに外部の方が訪れる際は、利用者のプライバシーに十分配慮している。

虐待防止委員会を設置し、高齢者虐待について全職員が理解しており、日々のケア提供場面で虐待防止に努めている。また、高齢者虐待を発見した場合の対応方法や報告の手順等を文書化しているほか、全職員が理解している。

散歩や畑の管理、買い物など、日常的に外出する機会を設けているほか、道の駅やさくらんぼ狩りなど、利用者の希望に沿った外出先を取り入れている。外出の際は個々の気分や体調を参考に、その日に合わせた支援を行っている。

利用者に馴染みの物を持参するよう働きかけているほか、一人ひとりの意向に合った居室作りを職員も一緒に取り組んでいる。

### 【特に改善が求められる点】

評価のねらいや活用方法について、全職員が理解することに期待したい。また、自己評価を作成する際は、全職員で取り組むことに期待したい。

災害発生時に備え、食料や飲料水、寒さをしのげる物品等を用意することに期待したい。

居心地の良い共有空間作りに向け、当該職員と2階の事業所職員が足音等に対し、配慮・連携することに期待したい。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価結果を基に、全職員で話し合いをし見直しが行われている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価や外部評価結果を基に、職員会議やケース会議の際に改善策等を話し合い、より良いサービスに繋げるため取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>町内会役員や利用者家族等もメンバーとして参加しており、会議の意義や役割を理解している。</p> <p>会議は2ヶ月毎に開催し、情報交換を行うほか、自己評価や外部評価結果、改善策等を報告し、得られた意見等はサービスの向上に活かしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>面会時や運営推進会議への参加時等にコミュニケーションを図り、意見や要望を話しやすい雰囲気作りに努めている。また、内部・外部苦情受付窓口を明示しており、出された意見等は文書化し、全職員で問題解決に向け取組み、日々のサービスに反映させている。</p> <p>毎月、利用者の暮らしぶりやホームのサービス提供状況、金銭管理等について記載した手紙を発行しているほか、面会時にも報告している。また、健康状態や受診状況等は随時電話等で報告している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地区の町内会に加入し、会議や草取りなどの地域活動に参加し交流を図っている。</p> <p>また、地域住民に向けて年2回、介護教室を開催するほか、ホーム長が地域のキャラバンメイトとして活動しており、認知症の予防・普及活動に積極的に取り組んでいる。</p> <p>ホームに外部の方が訪れる際は、利用者のプライバシーに十分配慮している。</p>

## 【各領域の取組状況】

領域	取組み状況
I 理念に基づく運営	<p>「心豊かなケアの実践と人との関わりを大切にする」というグループ全体の理念のほかに、「私達は地域と尾ふれあいを持ち音楽のある生活で自分の落ち着ける場所と旬の物を食べる暮らしを提供します」という運営理念を掲げ、地域密着型サービスの役割を反映させている。</p> <p>理念は毎朝、職員で唱和し、一人ひとりの意識の向上に努め、地域交流や日々のケアのを通じて理念の実現に取り組んでいる。</p> <p>グループホーム協議会に加入し、3ヶ月に1回程度、研修会や事業所見学を行い、情報交換や連携を図っており、日々のサービスの向上や職員育成に繋げるため、具体的に取り組んでいる。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>安心してサービスを開始できるよう、事前訪問を行い、利用者や家族と十分に話し合い、家庭的事情を優先するよう調整している。</p> <p>職員は日々の生活や、月1回の利用者を含めた会議から、利用者を理解するよう心掛けている。また、一人ひとりの得意分野を把握し、発揮できるよう支援している。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>介護計画の実施期間を明示し、3ヶ月に毎に見直しを行っているほか、利用者の状況に応じて随時見直している。見直しを行う際は、職員のほか利用者や家族、医療機関等の意見も取り入れ再アセスメントを行い、現状に即した介護計画を作成している。</p> <p>利用者の入居前の受療状況を把握しており、希望する医療機関への受診を支援している。また、定期的な受診や体調変化時に対応できるよう、医療機関と連携を図っているほか、受診通院記録を作成し、家族等に報告することで、情報の共有が図られている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>利用者の個性を尊重し、声掛けや介助時は利用者の羞恥心に配慮している。また、職員は内・外部研修で個人情報保護法について理解しており、利用者の個人情報等のファイルは、外部の方の目の届かない場所に保管している。会議等を通じて、利用者への対応や声掛けについて話し合い、確認や改善への取組みを行っている。</p> <p>運営者及び全職員は研修を通じて身体拘束の内容や弊害について理解しており、身体拘束の無いケアを実践している。やむを得ず身体拘束を行う場合の対応等に関して文書化しており、家族に説明し同意を得る体制が整っている。</p>

# 評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「心豊かなケアの実践と人との関わりを大切にする」というグループ全体の理念のほかに、「私達は地域とのふれあいを持ち音楽のある生活で自分の落ち着ける場所と旬の物を食べる暮らしを提供します」という運営理念を掲げ、地域密着型サービスの役割を反映させている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は毎朝、職員で唱和し、一人ひとりの意識の向上に努め、理念の共有化を図っている。また、地域交流や日々のケアを通じて理念の実現に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地区の町内会に加入し、会議や草取りなどの地域活動に参加をし交流を図っている。また、地域住民に向けて年2回、介護教室を開催するほか、ホーム長が地域のキャラバンメイトとして活動しており、認知症の予防・普及活動に積極的に取り組んでいる。ホームに外部の方が訪れる際は、利用者のプライバシーに十分配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価結果を基に、職員会議やケース会議時に改善策等を話し合い、より良いサービスに繋げるため取り組んでいる。管理者は評価のねらいや活用方法について、会議等において全職員に周知しているが、職員が理解するまでには至っていない。また、自己評価を作成する際は、全職員で取り組むまでには至っていない。	○	評価のねらいや活用方法について、全職員が理解することに期待したい。また、自己評価を作成する際は、全職員で取り組むことに期待したい。
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会役員や利用者家族等もメンバーとして参加しており、会議の意義や役割を理解している。会議は2ヶ月毎に開催し、情報交換を行うほか、自己評価や外部評価結果、改善策等を報告し、得られた意見等はサービスの向上に活かしている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の広報紙にホームの理念を掲載しているほか、相談や情報提供を行い連携を働きかけている。また、自己評価や外部評価結果を報告し、ホームの実態の理解を図っている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者が制度についての研修を受講し、職員に内部研修を行うことで、職員への周知を図り、概ね理解している。必要に応じて、利用者や家族等に対し、情報提供等の支援を行う体制が整っている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、高齢者虐待について全職員が理解しており、日々のケア提供場面で虐待防止に努めている。また、高齢者虐待を発見した場合の対応方法や報告の手順等を文書化しているほか、全職員が理解している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所者家族にホームの理念や運営方針、サービス内容等を十分説明し、不安や疑問を解消するため、意見を引き出すよう働きかけている。また、契約改定時や退居の際なども十分に説明を行っているほか、退居の際は必要に応じて病院等とも連携を図り、支援している。		
10	12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者の暮らしぶりやホームのサービス提供状況、金銭管理等について記載した手紙を発行しているほか、面会時にも報告している。また、健康状態や受診状況等は随時電話等にて報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議への参加時等にコミュニケーションを図り、意見や要望を話しやすい雰囲気作りに努めている。また、内部・外部苦情受付窓口を明示しており、家族等から出された意見等は文書化し、全職員で問題解決に向け取り組み、日々のサービスに反映させている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の不安や混乱を重視した対応を努め、職員の異動を最小限に調整している。やむを得ず異動を行なう場合は、利用者の状態に合わせ、説明を行っている。また、業務に支障の無いよう、十分な引継ぎを行い、新しい職員を配置する場合は、全職員でサポートしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資質向上に向け、年間研修計画を立て、個々の力量や経験を考慮した研修に参加させている。また、受講後は報告書を作成するほか、伝達研修を行い全職員に周知している。さらに、職員の業務に関する助言を行うスーパーバイザーを確保している。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、3ヶ月に1回程度、研修会や事業所見学を行い、情報交換や連携を図っており、日々のサービスの向上や職員育成に繋げるため、具体的に取組んでいる。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	安心してサービスを開始できるよう、事前訪問を行い、利用者や家族と十分に話し合いながら、意向や希望に合うよう調整している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日々の生活や、月1回の利用者を含めた会議から、利用者を理解するよう心掛けている。また、一人ひとりの得意分野を把握し、発揮できるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日々の関わりの中から、思いや希望の把握に努めている。また、十分に把握出来ない場合は全職員で取り組むほか、必要に応じて家族等から情報収集を行っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個々の生活歴を尊重し、利用者の意見も聞いているほか、全職員の気づきを取り入れて介護計画を作成している。また、必要に応じて家族等からも情報を収集し、個別具体的なものとなっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間を明示し、3ヶ月に毎に見直しを行っているほか、利用者の状況に応じて随時見直している。見直しを行う際は、職員のほか利用者や家族、医療機関等の意見も取り入れ再アセスメントを行い、現状に即した介護計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望に合わせ、ドライブや買い物、文化祭やバザーへの参加など、柔軟な対応を行っている。また、地域住民対象の介護教室を開催している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の入居前の受療状況を把握しており、希望する医療機関への受診を支援している。また、定期的な受診や体調変化時に対応できるよう、医療機関と連携を図っているほか、受診通院記録を作成し、家族等に報告することで、情報の共有が図られている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応を明確にしており、利用者や家族等と十分に話し合い、意思統一を図っている。また、2階の老健施設看護師とも連携しており、アドバイスを得ている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の個性を尊重し、声かけや介助時は利用者の羞恥心に配慮している。また、職員は内・外部研修で個人情報保護法について理解しており、利用者の個人情報等のファイルは、外部の方の目の届かない場所に保管している。会議等を通じて、利用者への対応や声かけについて話し合い、確認や改善への取り組みを行っている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は業務を優先することなく、利用者一人ひとりのペースや希望、体調に合わせた柔軟な支援を行っている。		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望や好みに配慮しているほか、疾病のある利用者に関しても医師と相談しながら、可能な限り本人の希望に添えるように支援している。また、食事の準備や後片付けは職員と一緒にしているほか、職員は食べこぼし等のサポートを行いながら、楽しい食事時間となるよう努めている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	アセスメントや日々の関わりの中で、利用者の入浴習慣や好みを把握し、週2回の入浴となっているが、できる限り利用者の意向を取り入れている。また、入浴を拒否する方に対しては、清拭や足浴等を促すほか、声かけを工夫するなどの取り組みを行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントを基に、利用者一人ひとりの希望や力量を把握し、花の水やりや野菜作りなどの役割や楽しみごとを促す働きかけを行っている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や畑の管理、買い物など、日常的に外出する機会を設けているほか、道の駅やさくらんぼ狩りなど、利用者の希望に沿った外出先を取り入れている。外出の際は個々の気分や体調を参考に、その日に合わせた支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者及び全職員は研修を通じて身体拘束の内容や弊害について理解しており、身体拘束の無いケアを実践している。やむを得ず身体拘束を行う場合の対応等に関して文書化しており、家族に説明し同意を得る体制が整っている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関を施錠していない。また、居室等利用者が日常出入りする場所は開放している。外出傾向を察知できるよう、見守りを行っている。やむを得ず施錠する場合は、家族等に十分に説明を行い同意を得るほか、無断外出に備え、運営推進会議を通して、近隣住民から協力が得られるよう体制が整っている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、利用者と職員と一緒に、昼夜を想定した避難訓練を行っている。災害発生時に備え、住民や消防署等から協力が得られるよう働きかけを行っているが、食料や飲料水、寒さをしのげる物品等を用意するまでには至っていない。	○	災害発生時に備え、食料や飲料水、寒さをしのげる物品等を用意することに期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮した献立となっており、1日の総摂取カロリーや、水分摂取量を概ね把握し、記録している。利用者の栄養摂取状況や献立等についてグループ内栄養士から指導や助言が得られる体制が整っている。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関するマニュアルを作成し、必要に応じて見直しを行うほか、定期的な学習会を行い、全職員に周知している。また、行政や保健所等と連携し、最新の情報収集に努め、得られた情報は利用者や家族に周知し、感染症予防に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は季節の花を飾ったり、手作りの装飾を行うなどし、家庭的な雰囲気となるよう工夫している。また、テレビや音楽の音量、日射しの量等は適切に保たれているが、当該職員と2階の事業所職員が、業務の際に立てる足音に配慮するまでには至っていない。	○	居心地のいい共有空間作りに向け、当該職員と2階の事業所職員が足音等対し、配慮・連携することに期待したい。
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者に馴染みの物を持参するよう働きかけているほか、一人ひとりの意向に合った居室作りを職員も一緒に取り組んでいる。		

※  は、重点項目。